42. 戦前にあった芭蕉の辻の里程元標

問 戦前まで芭蕉の辻にあった里程元標には、どんな事項が書かれていたかを知りたい。

答 里程元標は、大町4丁目芭蕉の辻西北隅、東経140度52分15秒、北緯38度15分35秒の地点に建てられてあった角柱で、次のように記されていました。

正面(東) 宮城県里程元標　仙台市芭蕉辻

裏面(西) 明治二十九年十二月

右側(南)
長町駅へ壹里五丁四拾四間
原町駅へ貳拾四丁拾八間壹尺貳寸
距 新発田兵営五拾九里八丁貳拾八間
距 函館兵営百貳拾六里拾三丁三拾九間

左側(北)
七北田駅へ壹里三拾五丁三拾間
愛子駅へ貳里三拾四丁拾壹間
距 仙台師団拾丁
距 青森兵営九拾九里貳拾貳丁

また、これの前代の元標が、明治18年に芭蕉の辻に設置されてあり、明治29年にこの新標に建てかえられたことになっていました。旧標に記されていた事項は、次の通りです。

東京府を距る　九十二里二十八町三十六間二尺
福島県界を距る　二十一里三十五町三十三間
岩手県界を距る　四十七里二十六町七間
山形県界を距る　十六里三十二町四十三間
秋田県界を距る　六十五里九町五十一間二尺

この元標を基点にして国道筋〔4号線，当時六号国道〕に一里標が建てられていました。高さ約90㎝の石柱で、新河原町の4号線西側に現存のものがあります。

表面(東) 距仙台元標壹里不

左側(南) 陸前国仙台市新河原町

右側(北) 明治廿二年四月設宮城県

国道４号線七北田村分にも、同時に建てられたものがありましたが、昭和28年道路工事の際徹去されてしまいました。「距仙台元標壹里不　陸前国宮城郡七北田村　明治廿二年四月設宮城県」と刻んであったものです。

なお、昭和46年１月里程標を復元したとして某建築業者が建てた石標は、全くの虚構に成るもので、誤りを後世に伝えることになります。「道標　南江戸六十九次日本橋迄九十三里奥州街道　北津軽四十五次三廐迄百七里二十二丁奥道中」とありますが、このような道標はかつて存在した事実がありません。形状も大町五丁目東一番丁東北角の氷人石標〔大内源太右衛門が明治15年12月５日建立〕の写真〔「仙台市史」第５巻P. 443・「東一番丁物語」(柴田量平）P. 141 所載〕を模したものであり、過去の絵図や写真と対照しても重大な虚妄というべきであります。〔この回答文〔文書による郷土的なレファンス質問に対する回答事例」２〕を公刊したのは昭和45年で、問題の石碑が建てられたのは翌46年のことでした。〕

資料　仙台市史（明治41年刊）

仙台市統計一斑（明治34年）

仙台繁昌記（富田広重、大正５年）

竹に雀の囀るところ（佐々木豹五郎）

43.　天守台の昭忠碑について

問　天守台にある忠霊塔の建立年月日、その高さと上部の鷲の両翼の長さ、製作者は誰かを教えてください。

答　この塔の正しい名称は「昭忠碑」といい、昭忠会が明治34年７月起工、翌35年11月22日竣工式を挙行しています。昭忠会とは、佐賀の乱以後の旧第二師団管内〔宮城・福島・新潟・山形〕の軍人軍属戦病死者・国事殉難者の霊を祀る(1)ための招魂社の建立と、あわせてこの昭忠碑の建碑を目的として、官民有志が時の宮城県知事小野田元熙を会長(2)として、明治31年11月15日に結成された団体です。招魂社の方は明治35年５月起工、同37年８月落成しました。

昭忠碑は、ゴシック式花崗岩の石塔の頂上に青銅製の金鵄を置き、石塔の前後に青銅のパネルを装置したものです。御質問にある鷲とは、この鵄(3)〔とび〕のことで、「明治天皇聖蹟志」(宮城県)(4)・「宮城県史」・「目で見る仙台の歴史」・「宮城百年」（毎日新聞社）等の諸書でも、鷲と記してある個所は誤りです。この塔の高さは67尺５寸、金鵄の翼の直径22尺です。〔記録のまま。*m*に換算しない〕。